



かるたを使ってアイヌ語を学ぶ子どもたち=北海道平取(ひらとり)町、二風谷(にぶたに) アイヌ語教室子どもの部提供



2015年に民博の前庭で行われた阿寒アイヌ協会によるカムイノミの儀式＝民博提供

カムイへの感謝、儀式で伝える



カムイノミの儀式（左下の写真）の中でひろうされた古式舞踊「サロルンリムセ（鶴の舞）」＝民博提供

民族がともに暮らす社会をめざし始めました。現在、アイヌは他の多くの日本人と変わらない生活を送っています。一方で、伝統を受けつぎつつ、時代に合った新しいアイヌ文化を生み出しています。古い着物の文様を洋服や小物にデザインしたり、昔の歌を現代風にして、アイヌ文化の良さを広めています。

入植者が増えると、アイヌは土地をうばわれ、漁や狩りも制限されて生活に困るようになり、次第に日本化されていきました。しかし、先人たちの活動が実り、国は1990年代になつてようやくアイヌ民族を尊重し、多

時代に合わせ変化

活用具を作るための素材
などをもたらしてくれる
と信じていました。人び
とは、漁を始めるときや
家の新築など暮らしの節
目に、カムイに感謝し安
全を祈るカムイノミの儀
式を行いました。「アイ
ヌ」とは、カムイに対し
て「人間」を意味するア
イヌ語で、自分たちのこ
とをさす言葉なのです。

その土地^{とち}「と」に古くから住み、独自の文化を築いてきた「先住民族」は、世界各地にいます。

どんな人たちのか、国立民族学博物館（民博）の研究者が解説します。

初回は、日本の先住民族のアイヌです。

アイヌは北海道を中心
に、本州北部や千島列島、
サハリン（樺太）南部に
暮らしてきました。北海
道では本州が弥生時代に
入つても水田での米作り
独自の文化を築いてきた
の文化は広まりず、採集
や狩猟・漁労を行つてい
ました。その後、本州や
中国などと交流を持ちな
がら、自然環境に合つた

人びとの子孫が、アイヌ
民族です。



文・齋藤玲子
(国立民族学博物館准教授)

アイヌ



アイヌのあいさつ

イランカラーテ

(これらにちは)

【国立民族学博物館】大阪府吹田市にある博物館・研究所。さまざまな民族の衣服や楽器、工芸品などの資料を展示している。文献も含め収蔵資料は100万点以上。アイヌ民話人形劇「ふんだりけつたりクマ神さま」が12月3日に同館で上演。